

# ハリヨってこんな魚

## ●世界最南端にすむトゲウオのなかまで

- ◎背びれや腹びれの一部がトゲ状になった「トゲウオ(トゲウオ科イトヨ属)」とよばれる魚のなかまで。
- ◎現在、国内の自然生息地は減少しており、岐阜県南西部(大垣市、海津市、養老町など)と滋賀県北東部の2か所のみといわれています。
- ◎世界各地に分布するトゲウオ類のなかで、岐阜県のハリヨ生息地は最南端に位置しています。

## ●きれいな湧水環境のシンボルです

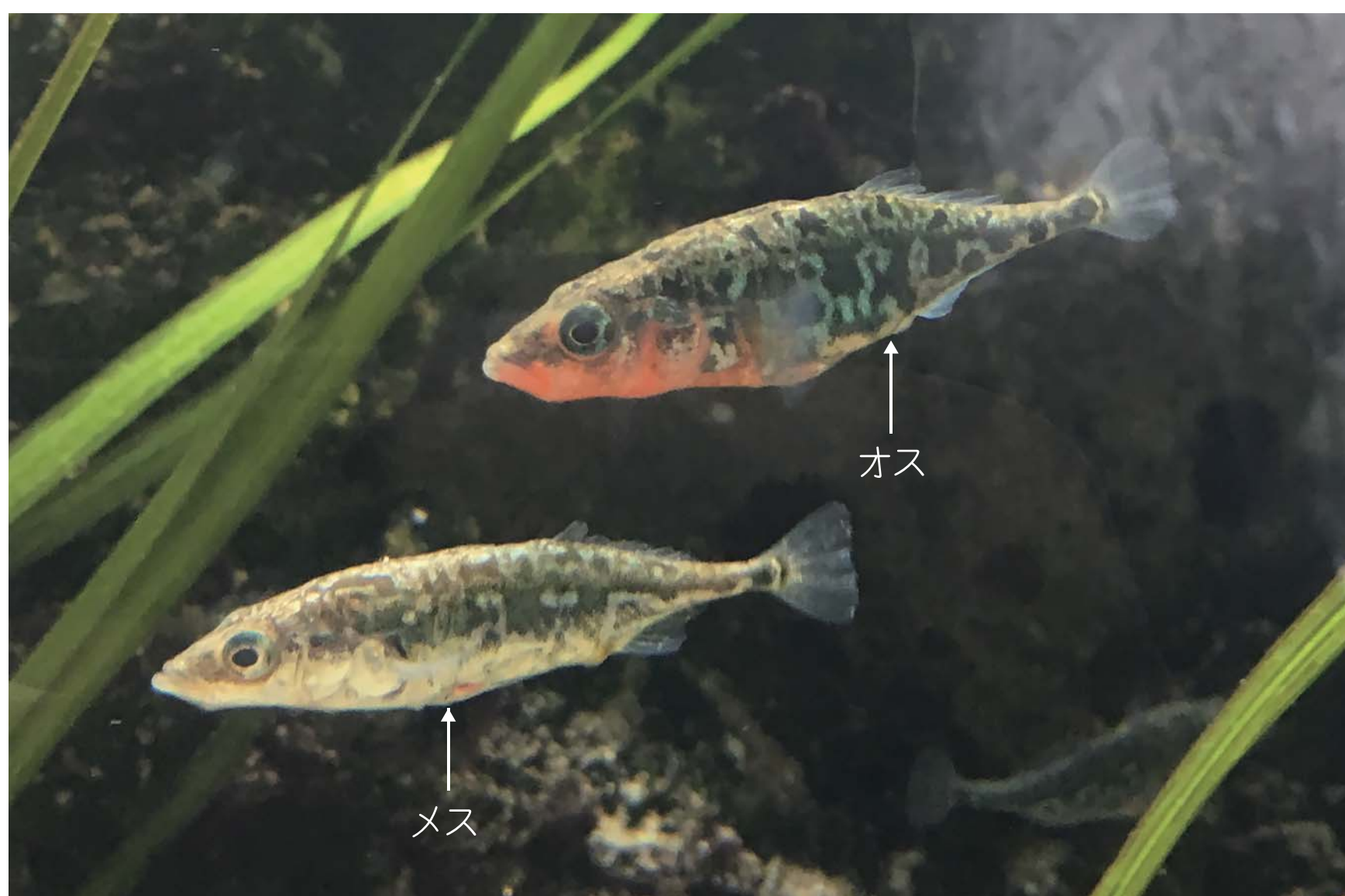
- ◎夏でも20℃を超えない冷たい水と、繁殖に必要な水草(バイカモなど)が適度に生育し、水底が泥や砂である小水域に生息しています。
- ◎こうした環境の多くは、湧き水を水源に持つ細流や池で、ハリヨが生息している場所は「きれいな湧水環境」であることの目印になります。

## ●絶滅の危機に瀕しています

- ◎近年の開発に伴う湧水の減少や水質の悪化、オオフサなどの外来植物の繁茂などにより、ハリヨの生息に適した湧水環境が減少し、絶滅の恐れが高まっています。
- ◎岐阜県の「指定希少野生生物」に選ばれており、許可なく捕まえることはできません。また、ハリヨの生息地は天然記念物として保護対象となっていることがあり、その場合、環境改変も原則禁止されています。



【オス】繁殖期(主に3～6月)になると体側は光沢のある青色で、のどから腹部にかけて赤っぽい婚姻色が表れます。



【メス】メスは繁殖期でも婚姻色は表れず、全体的に黄褐色をしています。メスはオスよりも大きい傾向にあります。

絶滅危惧ⅠA類  
(環境省レッドリスト)

絶滅危惧Ⅰ類  
(岐阜県レッドリスト)

指定希少野生生物  
(岐阜県希少野生生物保護条例)

トゲウオのなかまで  
背中に3本、お腹に  
2本、おしりに1本の  
トゲがあります

滋賀県  
北東部

岐阜県  
南西部

国内の  
自然生息地は  
2か所だけ



【岐阜県南西部に点在するきれいな湧水】岐阜県南西部には「平成の名水百選」の一つに選ばれた、加賀野八幡神社井戸をはじめとする多くの湧水があります。

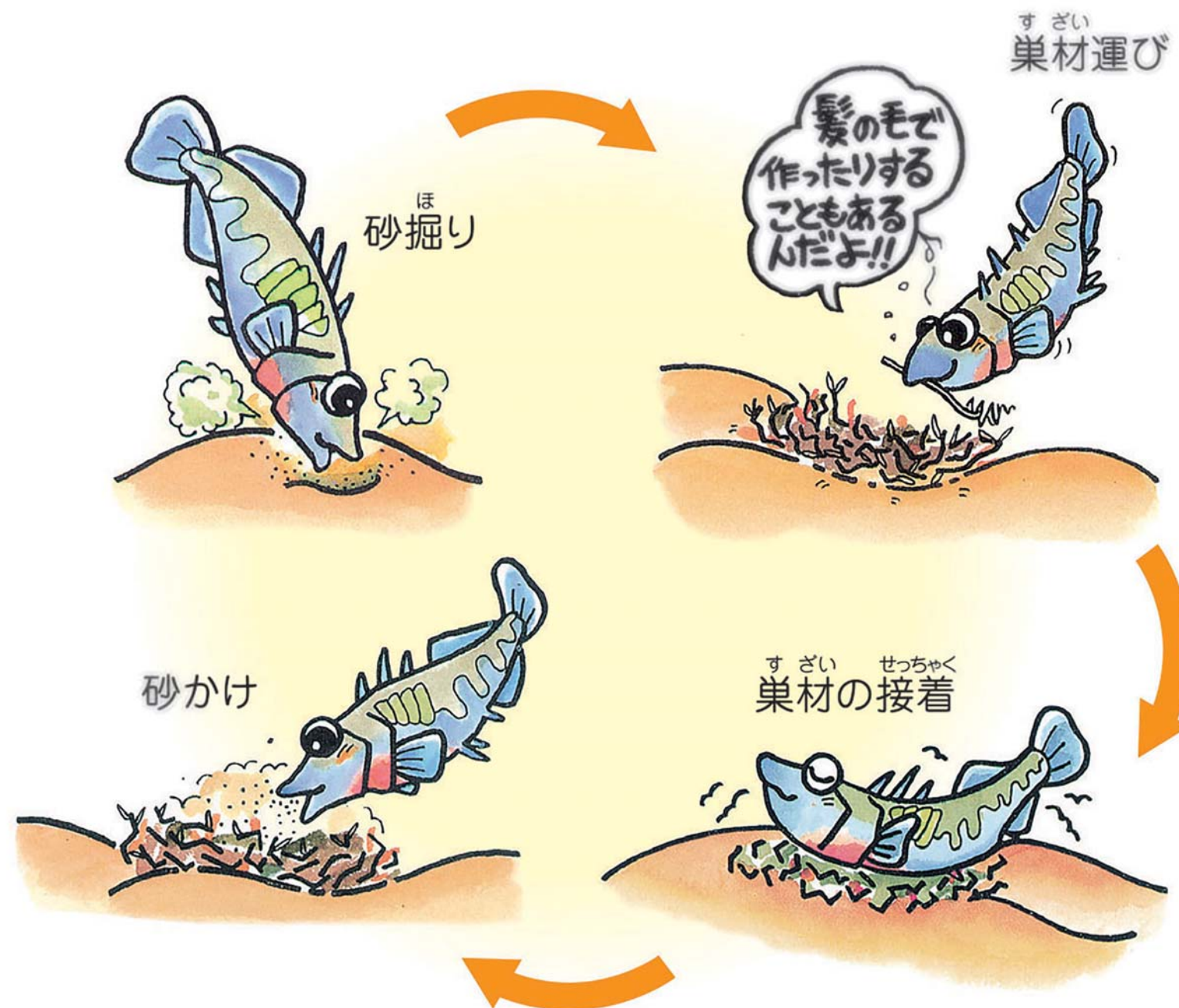
# ハリヨは「巣づくり・子育て」をするめずらしい魚です

ハリヨはほかのトゲウオ類と同様に、繁殖行動(巣づくり・求愛・子育て)が特徴的なことで知られています。オスは繁殖期(主に3～6月)になると、なわばり(約50cm四方)をつくり、水底にバイカモなどの水草や植物の根などを材料にして、トンネル状の巣をつくります。なわばりの近くでメスを見つけたオスは、ジグザグに踊るように泳ぎ、メスを巣に誘います。産卵・放精が終わっ

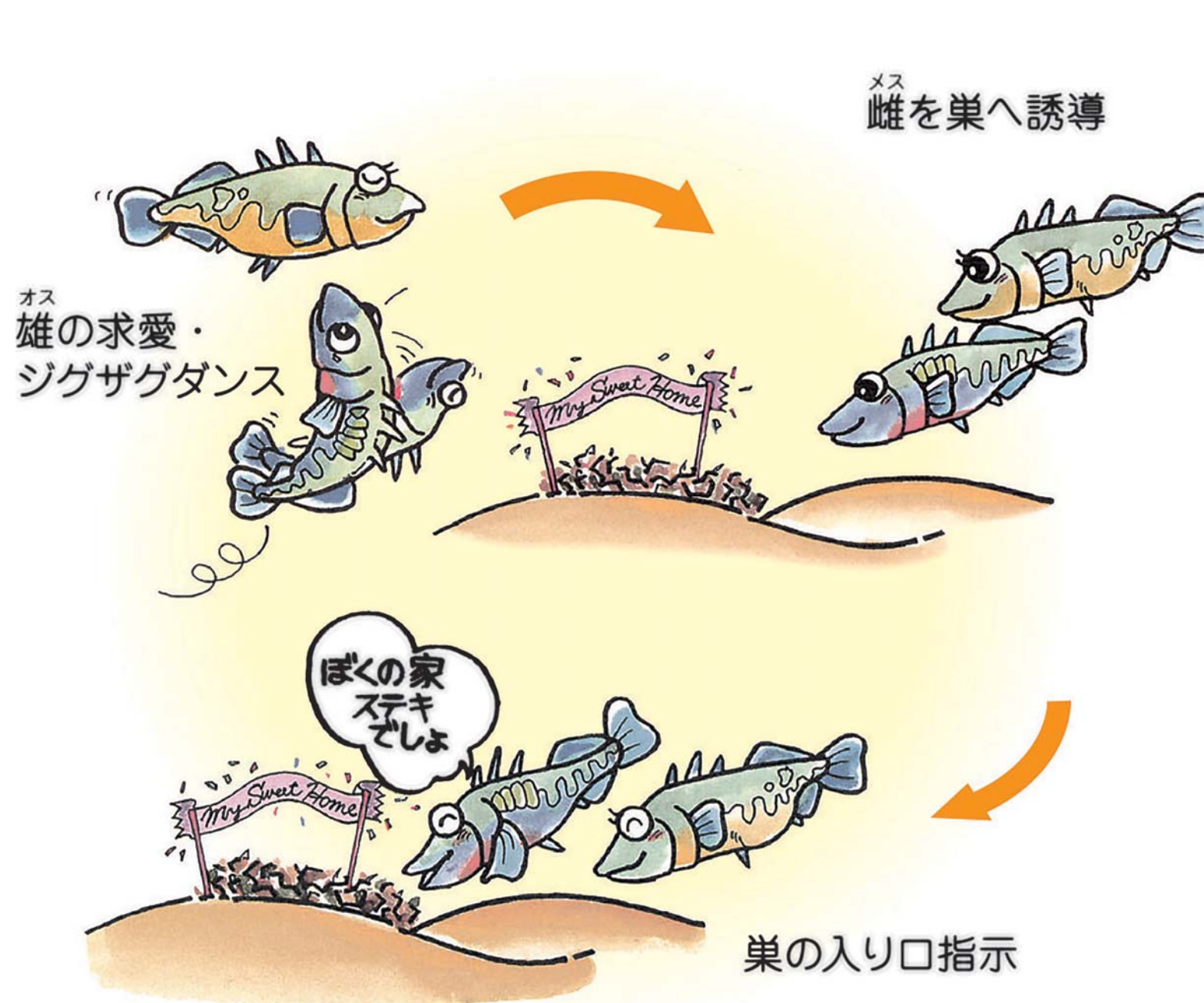
た後も、オスは巣に残り、腹びれで巣の中に新鮮な水や空気をあおぎいれるファンニングを行ったり、巣に近づく生き物から卵を守ります。孵化後も3～7日間は巣を守り、時には巣の外に出た子どもを口にくわえて、巣に戻す姿も見られます。

また、ほとんどのハリヨは、産まれてから1年以内に繁殖し、そのまま一生を終えます。

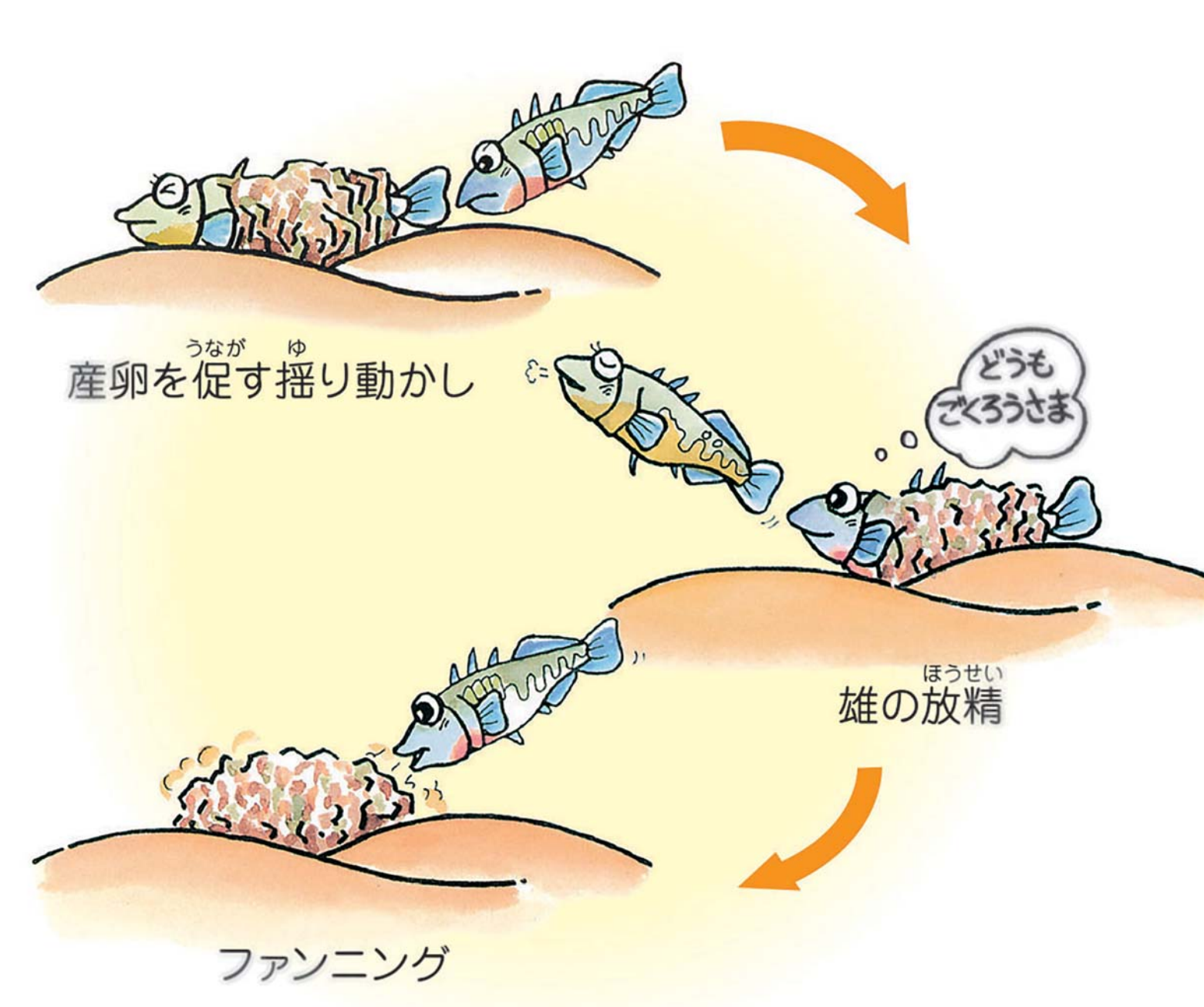
## ハリヨの巣づくり行動



## ハリヨの求愛行動



## ハリヨの産卵行動



## ハリヨを守るために、各地で活動が進んでいます。

古くから地域の人びとに親しまれているハリヨですが、いま、絶滅の危機に瀕しています。そのため、現在、各地で保全活動が進んでいます。例えば、川や水路に過剰に繁茂した、外来水草の駆除、ピオトープや池の整備や清掃、密漁者に対する地域住民によるパトロールなどが行われています。ハリヨの保全を通じて、自然や文化が守られ、地域の魅力向上につながることが期待されています。



【ハリヨの保全活動】ハリヨが生息している場所では、地域の皆さんを中心に清掃などの保全活動が行われています。



【良好な湧水環境】ハリヨは、流れが緩やかで水草が適度に繁茂している湧水由来の水域でみられます。ハリヨの保全には湧水の保全が重要です。



木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会とは、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人との絆を深めることを目的とし、流域の自治体、河川管理者、有識者によって、平成26年度に設立されました。また、木曽三川流域において、自然環境を保全・再生・創出してつなげる「生態系ネットワーク形成」に関連する活動を行う(または賛同する)、地域のさまざまな団体等に参加していただく「木曽三川エコネット応援団」を結成しています。応援団の皆さんの活動に関する情報共有等を図ることにより、地域の交流・協働を促進し、取り組みのさらなる発展を目指します。

